



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●慶良間のサンゴは白化で死んだのか？

—2016年の白化のその後—

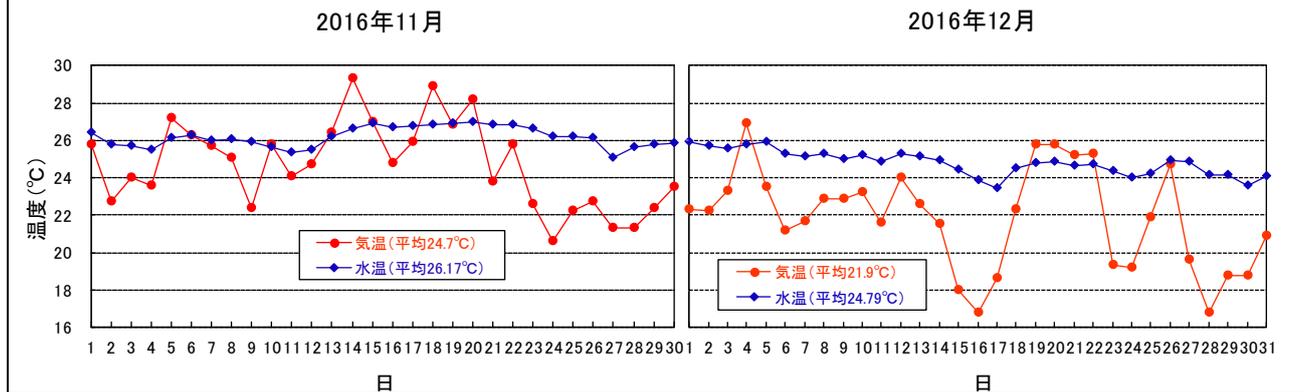
新年あけましておめでとうございます。暖かい正月でした。経験的には、11月上旬か下旬に寒波がやってきて、その後年末ごろには少しもち直して、いくらか暖かい正月をむかえるということが多いのですが、今年の正月は特に暖かかったようです。研究所に気温のデータの残っている1989年から今年2017年の正月三日（1月1日～3日）の平均気温を調べてみると、わずかな差ながら今年が29年間で最も気温の高い年でした（平均22.7℃）。ちなみに、第2位は1993年（22.6℃）で、第3位は2000年（22.1℃）でした。実は海水の温度も同じで、今年の正月三日の平均水温は過去29年間で第1位でした（平均水温24.4℃：第2位は2001年の23.8℃、第3位は1998年の23.4℃）。昨年の高い海水温がまだおさまっていないようです。

前々号のアムスルだより（No.141）でご報告したように昨年はこの高海水温のせいでたくさんのサンゴが白化しました。これらのサンゴはその後どうなったのでしょうか。今回は、昨年の白化の後のサンゴの様子をお話します。

2016年9月に調査した14地点のうち、浅い海底でのサンゴの白化が特にひどかったのが、座間味島の北側の2地点と屋嘉比島の北側の1地点でした。残りの11地点では一部分が白化したサンゴが多い場所はありませんでしたが、全体的にはそれほど深刻な状況ではないように思われました。10月におこなわれた環境省の調査でも、調査された36地点の平均白化率は15.2%で、白化率が50%を超えたのは5地点で、28地点では10%以下であったと報告されており、やはり慶良間の白化は全体としてはそれほどひどくはなかったようです。けれども、その後サンゴはどうなったのでしょうか。回復したのか、それともさらに悪化してたくさんのサンゴが死んでしまったのか、白化の後のサンゴの様子を知るために、2016年11月から12月にかけて調べました。

14地点で調査した結果、10地点ではほとんどのサンゴが白化から回復しており、死んでしまったサンゴもあまり見あたらず、やはり慶良間のサンゴは大きな被害はなく白化を乗り越えたのだと思いました。しかし、実はそういう場所だけでは

定点観測



ありませんでした。9月に白化のひどかった座間味島の北側の1地点では、調査地点を見つけられないくらいに様子が変わっており、浅い場所ではほとんどのサンゴが死んでしまっていました。死んだサンゴの上すでに海藻が生えて、よく見ないとサンゴだったことがわからないうらいだったのです。座間味島北側のもう1地点と屋嘉比島の北側の1地点でもたくさんのサンゴが死に、そして9月の調査の時にはあまり深刻に感じていなかった久場島の北側の1地点でも予想以上に多くのサンゴが死んでしまっていました。ただし、死んでしまったサンゴの多くは水深2mよりも浅いところにすんでいたもので、それよりも深い場所のものはほとんどが生き残っていました。その結果、白化で死んだサンゴの多かった4地点での死亡の割合は15~40%でした。そして、それぞれの地点でのサンゴ被度の減少は10%以下でした。このサンゴの減少は、確かに少ないものではありません。けれども、石西礁湖での9~10月の調査(35地点)で56.7%のサンゴが死亡していたという環境省の報告を見て、石西礁湖ではその後さらに死亡が増えた可能性があることを考えると、やはり2016年の慶良間での白化現象の被害は比較的軽かったと考えられます。

たくさんのサンゴが死んでしまったのは残念なことです。慶良間の海にはま

だ多くのサンゴが生きているのも確かです。座間味島の北側の地点のような場所も、順調にいけば、また数年後には白化の前のようなサンゴだらけの海にもどることでしょう。

●阿嘉島の海より

新年早々からサンゴが死んだ話で、あまり気分が良くないかもしれませんので、よい話を少しだけ書いておきましょう。本文で書いたように、2016年は白化でダメージを受けた年でした。そのせいもあるのか、前の年に比べてサンゴの被度が大きく増加した地点はありません。けれども、実際に見てみると、これまで育ってきていたテーブル状ミドリイシはさらに大きく成長し、昨年までは3mより浅い場所に集中して見られていたのが、やや深い場所でも見られるようになってきました。また、いくつかの場所では、枝状ミドリイシの新たな群体がちらほらと見られるようになってきました。そして、オニヒトデの食害の後あまり回復の感じられなかった渡嘉敷島の西側の2地点でも、小型から中型のサンゴがたくさん見られるようになってきています。こうした今の様子から、白化を乗り越えた慶良間のサンゴが、これからますます大きく、多くなり、やがて20数年前のような、ほんとうに美しく豊かなサンゴの海にもどることが十分に期待できます。